

臨時報  
(2010年2月9日)

# ブラデスコ ブラジル債券ファンド (分配重視型) 追加型投信/海外/債券

---

2010年2月(第13期)の分配金について  
分配金の引き上げのお知らせ



ブラデスコ ブラジル債券ファンド(分配重視型)は、第13期(2010年2月)の分配金を140円(1万口当たり、税引前)といたしました。  
分配金額引き上げを決定した背景、考え方等につきまして、ご説明いたします。



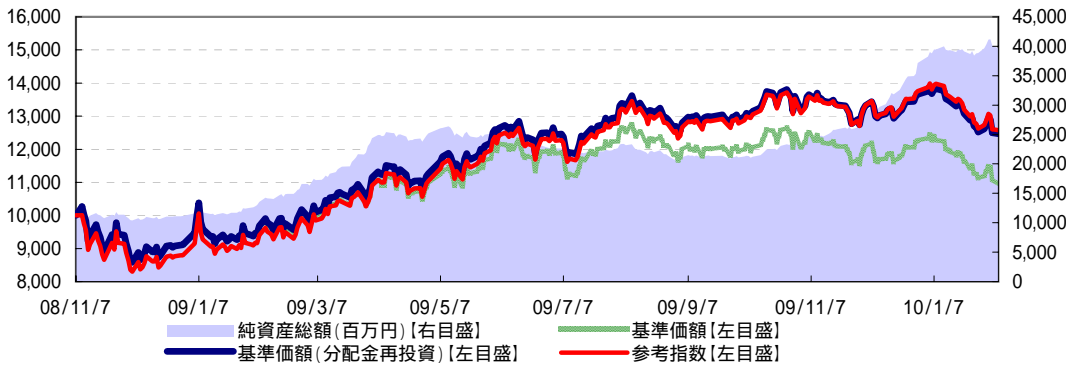
三菱UFJ投信

「当資料のご利用にあたっての注意事項等」をご覧ください。

2010年2月(第13期)の分配金について

平素は弊社商品「ブラデスコ ブラジル債券ファンド(分配重視型)」をご愛顧賜り、厚く御礼申し上げます。さて、当ファンドは2月8日に第13期決算を迎え、当期の分配金を1万口当たり140円(税引前)といたしましたことをご報告申し上げます。なお、決算後の基準価額は10,934円です。今後とも引き続き、「ブラデスコ ブラジル債券ファンド(分配重視型)」をご愛顧下さいますよう宜しくお願い申し上げます。

基準価額、基準価額(分配金再投資)の推移(2008年11月7日～2010年2月8日)



・基準価額、基準価額(分配金再投資)は設定日、参考指数は設定日翌営業日を10,000として指数化しています。  
 ・基準価額および基準価額(分配金再投資)は、信託報酬(純資産総額に対し、年率1.575%(税抜1.5%))控除後の値です。  
 ・基準価額(分配金再投資)は、分配金(税引前)を再投資したものと計算しており、追加設定時信託財産留保額は考慮しておりません。  
 ・参考指数はIRF - M指数(円換算ベース)です。IRF - M指数とは、ANDIMA(ブラジル金融機関連盟)が発表するブラジルリアル建ての国債指数で、固定利付債と割引債により構成されています。IRF - M指数(円換算ベース)とは、IRF - M指数をもとに、委託会社が計算したものです。

分配金の推移(1万口当たり、税引前)

設定来累計	第13期 (10/02/08)	第12期 (10/01/08)	第11期 (09/12/08)	第10期 (09/11/09)	第9期 (09/10/08)	第8期 (09/09/08)
1,515 円	140 円	125 円	125 円	125 円	125 円	125 円
第7期 (09/08/10)	第6期 (09/07/08)	第5期 (09/06/08)	第4期 (09/05/08)	第3期 (09/04/08)	第2期 (09/03/09)	第1期 (09/02/09)
125 円	125 円	100 円	100 円	100 円	100 円	100 円

運用状況によっては、分配金額が変わる場合、あるいは分配金が支払われない場合があります。

ポートフォリオの特性

最終利回り	10.89%
デュレーション	1.43年
平均残存年数	1.88年

(2010年1月29日現在)

・数値は、債券現物部分について計算しています。  
 ・最終利回りは、個別債券等について満期まで保有した場合の複利利回りを加重平均したものです。  
 ・利回りは、計算日時時点の評価にもとづくものであり、売却や償還による差損益等を考慮した後のファンドの「期待利回り」を示すものではありません。  
 ・デュレーションは、債券価格の弾力性を示す指標として用いられ金利の変化に対する債券価格の変動率を示します。  
 ・平均残存年数は、各債券の残存年数を債券の額面で加重平均したものです。

当ファンドの分配方針について

- ・ 分配対象額は、経費等控除後の配当等収益および売買益(評価益を含みます。)等の全額とします。
- ・ 収益分配金額は、委託会社が基準価額水準、市況動向等を勘案して決定します。ただし、分配対象収益が少額の場合には分配を行わないことがあります。
- ・ 収益の分配にあてなかった利益については、信託約款に定める運用の基本方針に基づいて運用を行います。

今期決算(2010年2月)における分配金の引き上げについて

- ・ 当ファンドは、ブラジルリアル建てのブラジル国債を主要投資対象として運用を行い、上記の分配方針に従い2009年2月から6月までは1万口当たり100円(税引前)の分配金、2009年7月からは1万口当たり125円(税引前)の分配金を継続してまいりました。
- ・ ブラジル債券市況は、2009年1月から7月までの大幅利下げ効果が徐々に浸透したことなどを背景に、内需を中心にブラジル経済が回復しつつあることを示す経済指標の発表が相次いだことや、ブラジル中央銀行がインフレ圧力は引き続き抑制されているとの認識を示していることなどから債券利回りはやや上昇しながら安定的に推移する展開となりました。

当資料中のグラフ・数値は過去の実績・状況であり、将来の運用状況・成果等を示唆・保証するものではありません。また、税金・手数料等を考慮していませんので、実質的な投資成果を示すものではありません。

- ・ブラジルと日米欧等先進主要国との金利差は高水準で推移しており、高金利通貨としてのレアルの優位性は今後も続くという見方や、ブラジル中央銀行が発表したエコノミスト調査でブラジル経済の成長率見通しが上方修正されるなど、同国の景気回復期待が高まる中、ブラジルレアルは対円で上昇しました。
- ・当ファンドの基準価額は安定的かつ高水準な債券利回り推移やブラジルレアルの対円での上昇から、上昇基調で推移しました。こうした基準価額の上昇を踏まえ、利子等収益、市況動向等を総合的に勘案した結果、今期決算の分配金を1万口当たり140円(税引前)に引き上げることいたしました。

当月(2010年2月)の当ファンド決算に当たり、分配についてのQ&Aを以下、作成しましたのでご参照ください。

## Q & A

### Q1 なぜ、分配金を引き上げたのですか？

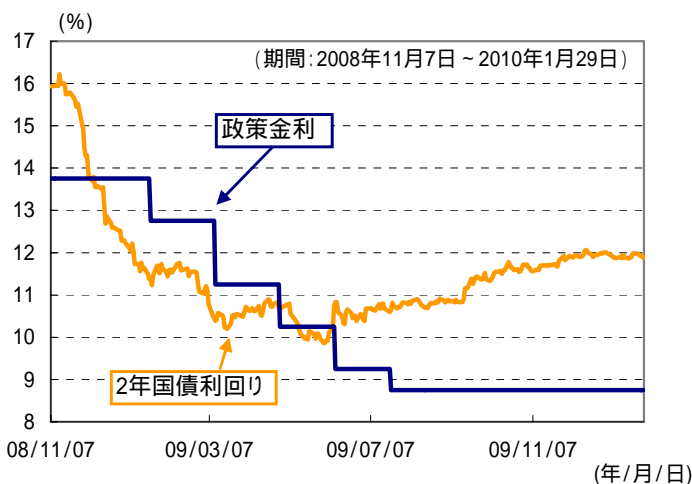
ブラジル経済の回復傾向が続く一方、インフレも良好な水準に維持されていることから、ブラジル中央銀行は2009年7月以降、政策金利を据え置いています。その間、債券利回りは安定的かつ高水準に推移しています。(図1、図2)

ブラジル債券の購入時に発生する為替取引に対して、2%の金融取引税を課すブラジル政府の発表や、UAE(アラブ首長国連邦)ドバイ首長国の政府系持株会社の債務返済問題に対する懸念などからリスク回避的な動きが強まり、円高レアル安になる局面もありました。しかし、2016年のオリンピックの開催地がブラジルのリオデジャネイロに決定されたことや原油価格の上昇などを背景に、景気回復期待からレアルを買う動きが強まり、概ね円安レアル高基調で推移しています。(図3)

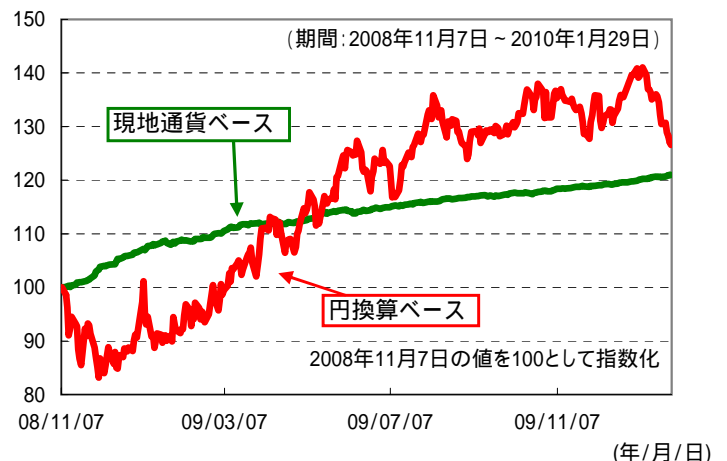
安定的かつ高水準な利子収入と、円安レアル高による基準価額の上昇は分配原資の増加要因となっています。



(図1) ブラジル政策金利と2年国債利回り推移



(図2) ブラジル債券(IRF - M指数)のパフォーマンス



(出所)ブルームバーグ社のデータより三菱UFJ投信作成

・図2は当ファンドの参考指数であるIRF - M指数の円換算ベース、現地通貨ベースの値です。よって、当ファンドの運用実績とは異なる点にご留意下さい。

・当資料中のグラフ・数値は過去の実績・状況であり、将来の運用状況・成果等を示唆・保証するものではありません。また、税金・手数料等を考慮しておりませんので、実質的な投資成果を示すものではありません。

「当資料のご利用にあたっての注意事項等」をご覧ください。

# Q & A

(図3) 円リアルレートの推移



(出所)ブルームバーグ社のデータより三菱UFJ投信作成

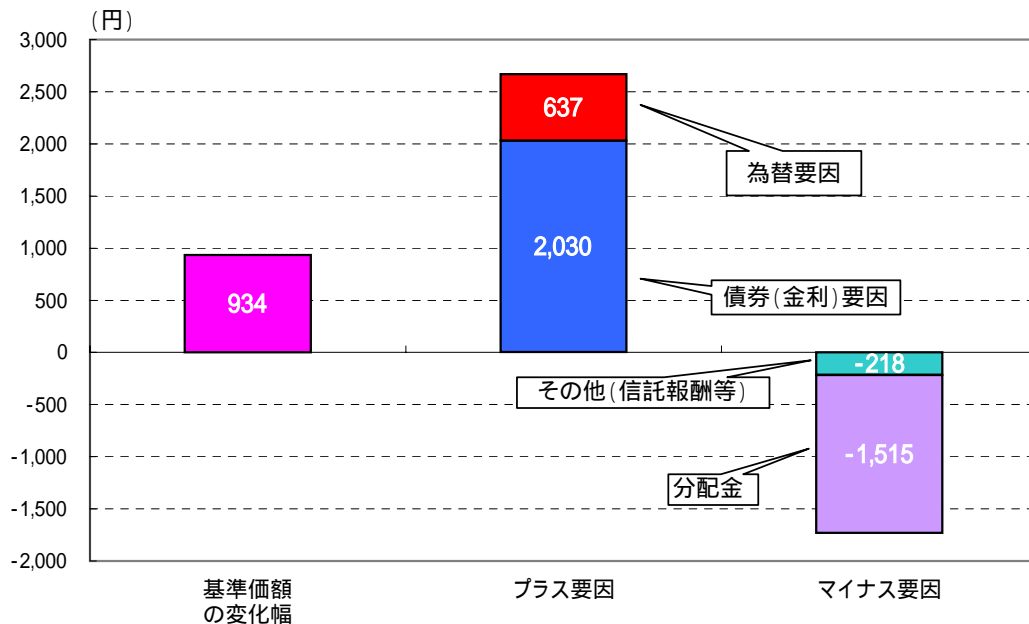
## Q2 基準価額の上昇要因は何ですか？

基準価額は10,934円(2010年2月8日時点)と設定当初から934円値上がりしていますが、上昇の主要因は円安による為替要因と債券(金利)要因がプラスとなったことによるものです。(図4)

債券(金利)要因は、債券利回りが安定的かつ高水準に推移したことから、債券の利子収入を着実に獲得したことにより、概ね2,030円のプラス要因となりました。

当ファンドは為替ヘッジを行わないため、為替変動の影響を受けますが、投資家の高金利通貨としてのレアルを選好する動きが強まり円安で推移した結果、為替要因は概ね637円のプラス要因となりました。

(図4) 基準価額の変動要因(概算値)(1万口当たり; 2008年11月7日 ~ 2010年2月8日)



・四捨五入のため全体計と内訳の合計が相違することがあります。  
 ・「基準価額の変動要因(概算値)」は、各要因が基準価額に与えた影響をご理解いただくために簡便的に計算した概算値であり、その正確性、完全性等を保証するものではありません。  
 ・当資料中のグラフ・数値は過去の実績・状況であり、将来の運用状況・成果等を示唆・保証するものではありません。  
 また、税金・手数料等を考慮しておりませんので、実質的な投資成果を示すものではありません。

「当資料のご利用にあたっての注意事項等」をご覧ください。

## Q3 今後、分配金が再び上がる、または下がることはありますか？

当ファンドでは、利子収入、債券や為替の値上がり益、および過去の収益の繰越分(分配を行わなかった分)などを収益分配原資として分配を行います。したがって、これらの状況の変化により分配金額は上がることも下がることも考えられます。

当面の間は安定的な分配に留意しますが、今後の市況動向や運用状況によっては分配金額が変動する、またはお支払いできない場合もあります。

様々な要因により分配原資総額は変化いたしますので、将来の分配金額については、あらかじめ一定の額をお約束できるものではありません。

## Q4 今後のブラジルの金利と為替の見通しは？

(金利見通し)

ブラジル経済の回復傾向は続いています。今後は国内需要の伸びが落ち着いてくると見ていることから、インフレ率は良好な水準で維持されると考えています。2010年3月以降に中央銀行が金融引き締めを実施すると予想しますが、そのペースは緩やかなものになると見えています。市場は既に金融引き締めへの転換をある程度織り込んでおり、債券利回りは現水準を挟んで上下する展開になると予想します。

(為替見通し)

堅調なブラジル経済指標に加え、2014年のFIFA(国際サッカー連盟)ワールドカップや2016年のオリンピック開催を見据えた海外からの直接投資などを背景に、海外からの資本流入が引き続きレアルを下支えすると予測します。一方、輸入の増加や外国企業による利益・配当金などの海外送金を背景とするドル需要の増加も予想され、レアルは対米ドルで足下の水準を維持すると見えています。2010年後半以降については、国内需要の伸びの鈍化や大統領選挙(2010年10月予定)への思惑などにより、レアルは対米ドルで弱含む局面もあると考えています。

・ブラデスコ ブラジル債券ファンド(分配重視型)の主要投資対象であるブラデスコ ブラジル債券マザーファンドの運用指図に関する権限を委託しているブラデスコ・アセットマネジメントの資料に基づきコメントを作成しております。  
 ・コメントは作成時点のものであり将来予告なく変更されることがあります。また、将来の市場環境の変化または運用成果等を保証するものではありません。

「当資料のご利用にあたっての注意事項等」をご覧ください。

## ファンドの特色

- ・主として、ブラデスコ ブラジル債券マザーファンド受益証券への投資を通じて、ブラジルリアル建てのブラジル国債を中心に投資を行い、信託財産の着実な成長と安定した収益の確保をめざします。
- ・ブラデスコ・アセットマネジメントにマザーファンドにおける債券等の運用指図に関する権限を委託します。
- ・実質的な組入外貨建資産については、原則として、為替ヘッジを行いません。
- ・「分配重視型」と「成長重視型」があります。

## 商品概要

信託期間	： 2008年11月7日から2018年10月9日まで ただし、ファンドの残存口数が30億口を下回った場合等には、信託期間の途中で信託を終了させることがあります。
決算日	： 原則として、毎月8日(休業日の場合は翌営業日)
参考指数	： IRF - M指数(円換算ベース)
お買付け申込み・中途換金	： 原則として、いつでもお買付け申込み、換金のお申込みができます。ただし、サンパウロ証券取引所の休業日およびサンパウロ、ニューヨークの銀行の休業日に該当する日については、お買付・中途換金のお申込みができません。
申込価額	： 販売基準価額(取得申込受付日の翌営業日の基準価額 + 追加設定時信託財産留保額)
換金(解約)価額	： 換金請求受付日の翌営業日の基準価額

### 【お客さまには以下の費用をご負担いただきます。】

申込時に直接ご負担いただく費用	
申込手数料	： 申込価額 × 3.15% (税抜3%) を上限として販売会社が定める手数料率
追加設定時	： 取得申込受付日の翌営業日の基準価額 × 2%
信託財産留保額	(金融取引税に相当するものとして委託会社が定める率。料率は今後変更になる可能性があります。必ずしも、金融取引税の税率変更と同じタイミングで変更されるわけではありません。)
換金時に直接ご負担いただく費用	
信託財産留保額	： なし
保有期間中に間接的にご負担いただく費用	
信託報酬	： 純資産総額に対して、年率1.575% (税抜1.5%)
その他費用(*)	： 売買委託手数料、租税、監査報酬、組入資産の保管等に要する諸費用、先物取引・オプション取引等に要する費用等 海外からのブラジル債券投資について、債券購入時に発生する為替取引に対して、ファンドの信託財産を通じて間接的に金融取引税を負担いただくこととなります。

(\*)「その他費用」については、運用状況等により変動するものであり、事前に料率、上限額等を表示することができません。

なお、お客さまにご負担いただく費用等の合計額については、お申込金額や保有期間等に応じて異なりますので、表示することができません。

(課税関係) 個人受益者については、分配時の普通分配金ならびに換金時および償還時の価額から取得費を控除した利益に対して課税されます。なお、法人の課税は異なります。また、税法が改正された場合等には、変更となることがあります。

詳しくは投資信託説明書(交付目論見書)をご覧ください。

当ファンドは、課税上、株式投資信託として取り扱われます。

【お申込不可日について】2010年の該当日は1月18日、1月25日、2月15日、2月16日、4月2日、4月21日、5月31日、6月3日、7月5日、7月9日、9月6日、9月7日、10月12日、11月2日、11月11日、11月15日、11月25日、12月24日です。なお、休業日は変更される場合があります。

## 当資料のご利用にあたっての注意事項等

当ファンドは、主に公社債を実質的な投資対象としますので、金利変動により組入公社債の価格が下落すること、組入公社債の発行者の倒産や財務状況の悪化等の影響により組入公社債の価格が下落すること等で当ファンドの基準価額が下落し、損失を被ることがあります。また、実質的に外貨建資産に投資しますので、為替の変動により損失を被ることがあります。当ファンドは、新興国通貨建て公社債に投資するため、先進国への投資を行う場合に比べ、為替の変動が大きくなる可能性があります。したがって、投資家のみなさまの投資元金が保証されているものではなく、基準価額の下落により損失を被り、投資元金を割り込むことがあります。当ファンドの主な投資リスクとして、組入公社債の価格変動リスクや為替変動リスク、信用リスク、流動性リスク、カントリーリスク等があります。

詳しくは投資信託説明書(交付目論見書)の「基本情報 リスク」をご覧ください。

投資信託は、預金等や保険契約とは異なり、預金保険機構、貯金保険機構、保険契約者保護機構の保護の対象ではありません。/ 金融商品取引業者以外の金融機関は、投資者保護基金に加入しておりません。/ 投資信託は、販売会社がお申込みの取扱いを行い委託会社が運用を行います。/ 投資信託の取得のお申込みを行う場合は、販売会社よりお渡しする最新の投資信託説明書(交付目論見書)の内容を必ずご確認のうえ、ご自身でご判断ください。/ 投資信託は、書面による契約の解除(クーリング・オフ)の適用はありません。/ 運用により信託財産に生じた損益はすべて投資家のみなさまに帰属します。

当資料は、当ファンドの運用状況をお知らせするために三菱UFJ投信が作成した資料であり、金融商品取引法に基づく開示資料ではありません。/ 当資料の内容は作成時点のものであり、将来予告なく変更されることがあります。/ 当資料は信頼できると判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。/ 当資料中のグラフ・数値等は、過去の実績・状況であり、将来の市場環境等や運用成果等を示唆・保証するものではありません。また税金・手数料等を考慮しておりませんので、実質的な投資成果を示すものではありません。

市況動向および資金動向等により、ファンドの基本方針通りの運用が行えない場合があります。

**(お申込みの際には、必ず投資信託説明書(交付目論見書)をご覧ください。)**

設定・運用 ... 三菱UFJ投信株式会社  
金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第404号  
加入協会 (社)投資信託協会  
(社)日本証券投資顧問業協会

<お客様専用フリーダイヤル> 0120-151034(毎営業日の9:00~17:00)  
<公式サイト> <http://www.am.mufig.jp/>  
基準価額・分配金をメール配信 <http://k.m-muam.jp/a/1/3>  
(\*メール配信対象外ファンドもあります。)



## 当ファンドにかかるリスクについて

当ファンドへの投資にあたっては、主に以下のリスクを伴います。このため、お申込みの際は、当ファンドのリスクを認識・検討し、慎重に投資のご判断を行っていただく必要があります。

<b>市場リスク</b>	<p>(価格変動リスク) 当ファンドは、公社債を実質的な主要投資対象としており、公社債の投資に係る価格変動リスクを伴います。一般に、公社債の価格は市場金利の変動等を受けて変動するため、当ファンドはその影響を受け公社債の価格が下落した場合には基準価額の下落により損失を被り、投資元金を割り込むことがあります。</p> <p>(為替変動リスク) 実質的な主要投資対象である海外の公社債は外貨建資産ですので、為替変動の影響を受けます。そのため、為替相場が円高方向に進んだ場合には、基準価額の下落により損失を被り、投資元金を割り込むことがあります。</p>
<b>信用リスク</b>	<p>信用リスクとは、有価証券等の発行者や取引先等の経営・財務状況が悪化した場合またはそれが予想された場合もしくはこれらに関する外部評価の悪化があった場合等に、当該有価証券等の価格が下落することやその価値がなくなること、または利払いや償還金の支払いが滞る等の債務が不履行となること等をいいます。当ファンドは、信用リスクを伴い、その影響を受けますので、基準価額の下落により損失を被り、投資元金を割り込むことがあります。</p>
<b>流動性リスク</b>	<p>有価証券等を売却あるいは取得しようとする際に、市場に十分な需要や供給がない場合や取引規制等により十分な流動性の下での取引を行えない、または取引が不可能となるリスクのことを流動性リスクといい、当ファンドはそのリスクを伴います。例えば、組み入れている公社債の売却を十分な流動性の下で行えないときは、市場実勢から期待される価格で売却できない可能性があります。この場合、基準価額の下落により損失を被り、投資元金を割り込むことがあります。</p>
<b>カントリーリスク</b>	<p>新興国への投資は、先進国への投資を行う場合に比べ、投資対象国におけるクーデターや重大な政治体制の変更、資産凍結を含む重大な規制の導入、政府のデフォルト等の発生による影響を受けることにより、市場・信用・流動性の各リスクが大きくなる可能性があります。この場合、基準価額の下落により損失を被り、投資元金を割り込む可能性が高まる場合があります。</p>
<b>留意事項</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・当ファンドは、一定の運用成果を保証するものではありません。</li> <li>・当ファンドは、ファミリーファンド方式により運用を行います。そのため、当ファンドが投資対象とするマザーファンドを共有する他のベビーファンドの追加設定・解約によってマザーファンドに売買が生じた場合などには、当ファンドの基準価額に影響する場合があります。</li> <li>・当ファンドは、原則として毎期収益分配を行う方針ですが、毎期一定水準の収益分配金の支払いを保証するものではなく、収益分配金額は運用実績に応じて変動します。なお、分配対象収益が少額の場合には、収益分配を行わないことがあります。</li> </ul>

